

do it pro bono.

サービスグラント 年次報告書2010

[2010年4月1日－2011年3月31日]

SERVICE GRANT

特定非営利活動法人 サービスグラント

目次

2010年度の総括

- 1 サービスグラントの運営事業
- 2 プロボノに関する広報事業
- 3 プロボノに関するコンサルティング事業
- 4 情報発信実績
- 5 理事より
- 6 会計報告
- 7 お世話になった皆さま

2010年度の総括

「プロボノ元年」

2010年は、まさにその言葉を体現する年となりました。

2009年12月に開催した「プロボノフォーラム」以後、プロボノに関する注目は着実に高まりを見せてきました。

2010年度のトピックスの中でも、重要なポイントを3つだけ挙げるとすれば、以下の点があります。

第一に、サービスグラント提供件数の飛躍的増加です。今年度、これまでにない数多くのプロボノワーカーのみなさまにスキル登録をいただき、数多くのNPOのみなさまからのエントリーをいただいたことで、サービスグラントの提供件数は飛躍的に伸びました。

第二に、企業の参加が挙げられます。2010年度は、企業と連携したプロボノプロジェクトがスタートする記念すべき年となりました。企業のCSR活動の一環として、従業員の社会貢献活動の新しいスタイルとして、プロボノが取り入れられる契機となりました。

第三に、メディアへの発信です。NHK「クローズアップ現代」をはじめ、マスメディア上で「プロボノ」というキーワードがたびたび紹介されるようになったのは、2010年になって初めてのことです。その結果、「プロボノ」という言葉の認知度が格段に高まりを見せた1年となりました。

このような活動の発展と社会の変化を踏まえ、サービスグラントは、これからも「プロボノ」の可能性を追求しながら、社会の課題解決に寄与する取り組みを行っていきたいと考えています。

今後のサービスグラントの方向性としては、大きく3つあります。

第一に、フィールドを広げること。2011年からは関西でのプロジェクトをスタートしたほか、大都市から離れた地域をサポートする「ふるさとプロボノ」もスタートしています。

第二に、プログラムを拡充すること。現在、ウェブサイトをはじめとする広報・マーケティング分野に集中しているサービスグラントのプログラムを、戦略構築や業務改善など、NPOの抱える運営上の課題に多面的にアプローチできるようにしていきます。

第三に、対象を広げること。「プロボノ」によって応援できる対象は、NPOはもちろん、公共的な課題解決に携わるさまざまな主体が想定されます。「ふるさとプロボノ」では地方自治体のサポートが始まっていますが、自治体に限らず、幅広い対象へのサポートの可能性を模索していきます。

2010年の活動を糧にしながら、今後も、「プロボノ」の可能性を追求していきます。これからも **do it pro bono** !

1 | サービスグラントの運営事業

◆NPO支援状況

2010年度は、NPOからの申請が急増し、サービスグラントに対するニーズの高さを実感する年となりました。

助成申請件数は**102件**で、前年の27件と比べて大幅な伸びを見せました。審査を通過し、採択が決定した支援先NPOの総数も**21件**に伸び、前年度の12件から**75%増**となりました。

その結果、2005年の活動開始以来、これまでに実施したプロジェクトの累計件数は、2010年度末で**54件**となりました。

プロジェクトの種類は、全体の約8割がウェブサイトの提供となりました。制作するサイトの規模も大きくなる傾向があり、Wordpress等のCMS導入が標準的になるなど、より高いスキルを必要とする案件が増えています。

◇NPOアセスメント結果

サービスグラント提供による成果の把握と、今後の事業改善を目的として、2010年度プロジェクト参加・完了団体を対象に、プロジェクト終了後にアンケートを実施しました。

【総合評価】とてもよかった・よかった：8団体 よくなかった：1団体
【サービスグラントによって得られたこと（主な回答）】
「情報発信を継続的に行う体制ができた」「団体のビジョン、目標が明確になった」「内部関係者間で意識共有ができた」

2010年度支援先一覧

NPO法人日本アレルギー友の会	NPO法人勉強レストラン そうなんだ！
NPO法人湘南DVサポートセンター	NPO法人芸術家と子どもたち
NPO法人CCCNET	NPO法人日本せきずい基金
NPO法人青い空-子ども・人権・非暴力	NPO法人サポートハウスじよむ
全国少年友の会連絡会	NPO法人Fine
NPO法人ブリッジ・フォー・ピース	NPO法人東京断酒新生会
NPO法人ウィーキャン世田谷	NPO法人フラワーセラピー研究会
NPO法人自然環境復元協会	NPO法人日本語多読研究会
『知ろう！小児医療 守ろう！子ども達』の会	NPO法人子どもセンターてんぼ
NPO法人救急医療の質向上協議会	NPO法人キッズドア
NPO法人国際ビフレンダーズ 東京自殺防止センター	

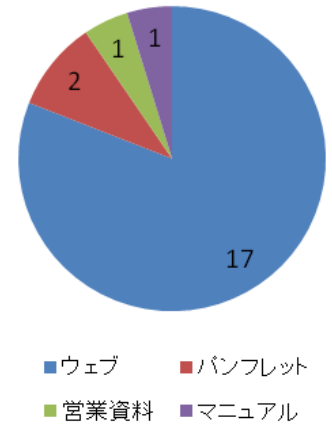
◆新施策：「プログラム運営マニュアル」の提供

従来提供してきた情報発信基盤を強化するプログラムに加え、2010年度第4期より「プログラム運営マニュアル・サービスグラント」を提供開始しました。第1回目のプロジェクトでは、小児医療講座の運営事業に取り組むNPOを対象に、日本各地のNPO会員が、高い品質の事業を運営できることを目的として、業務内容を分析・整理したうえで、マニュアルを作成するプロジェクトに着手しました。

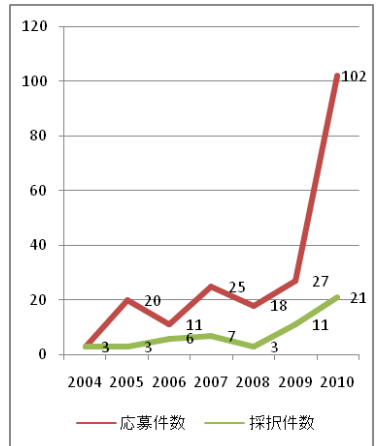
21件

採択件数

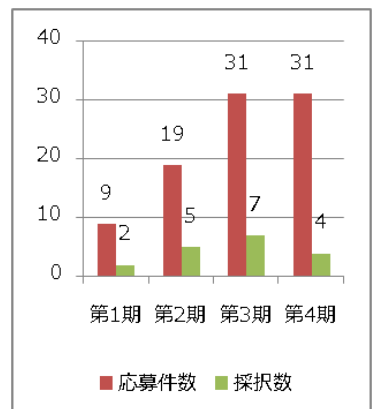
前年比
+75%



（図1）提供成果物の種類内訳



（図2）NPO応募数と採択数の推移



（図3）各期のNPO応募数・採択数

◆プロボノワーカー活動状況

多数のNPOからの助成申請に対応するプロボノワーカーを集めるため、説明会の開催頻度を増やし、年間**42回**のプロボノワーカー向け説明会を実施しました。「プロボノ」というキーワードの普及に伴って、説明会参加者・スキル登録者ともに大きく増加し、2010年度は新たに**404名**の方にスキル登録をいただきました。2010年度末時点での累計スキル登録者数は**774名**に上り、昨年度末の372人から**2倍以上**に増加しました。プロジェクトに参加したプロボノワーカー数は**118名**となりました。

◇「プロボノセンス」結果

プロボノプロジェクト参加後の成果を測るため、2005年から2010年までにサービスグラントに参加したボランティアの方を対象とするアンケート「プロボノセンス」を実施し、**100名**の方から回答を頂きました。総じて満足度は高く、「自身の視野が広がり、人間的な成長につながった」「今の仕事に活かせる有意義な経験を得ることができた」など、公私ともに好影響があったことが明らかになりました。

▼主な回答結果（5段階評価で回答）

Q1. サービスグラントへの参加経験にどのような印象をお持ちですか？
→**94%**の方が「非常に良い印象を持っている」「良い印象を持っている」と回答

Q2. NPOに提供した成果物の品質・満足度についてどのように感じていますか？
→**83%**の方が「とても良かった」「良かった」と回答

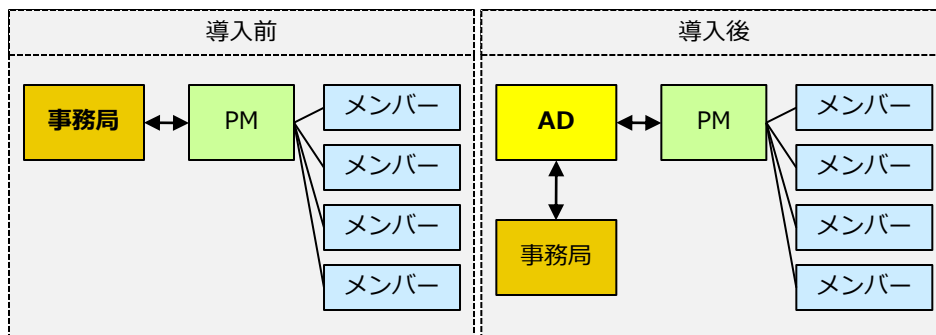
Q3. サービスグラントを他の人に勧めたいですか？
→**94%**の方が、「ぜひ勧めたいと思う」「勧めたいと思う」と回答

【公開URL】 <http://servicegrant.or.jp/program/probonosensus.php>

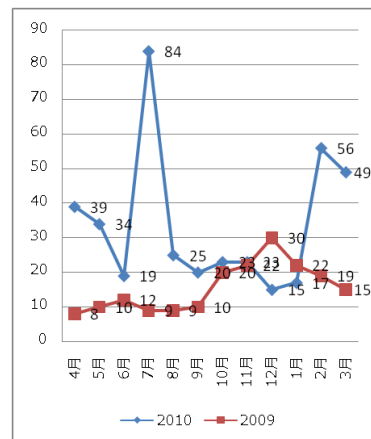
◆新施策：アカウントディレクター制度の導入

増え続けるNPOからのニーズに応え、より多くのプロジェクトを実現させるための方策として、**アカウントディレクター（以下AD）**というポジションを10月より導入しました。

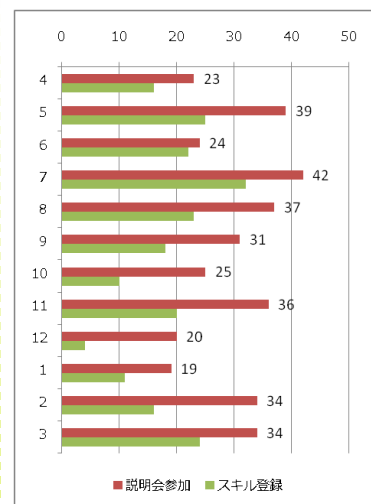
ADとは、プロジェクトの立ち上げ（スコープ設定・チーム編成）から納品までの品質管理を担うポジションです。実際の業務で培われた豊富な実務経験を持つADがプロジェクト運営に携わることで、ボトルネックとなっていた事務局への負荷集中を解決し、より多くのNPOを支援し、プロボノプロジェクトの実践機会を創出する道が開かれました。2010年度は6名のADの皆さまにご活躍いただきました。



スキル登録
累計人数
774名
前年比
+404名



（図4）スキル登録者数の推移



（図5）説明会参加者数の推移



（写真）第4期を担う3名のAD

2 | プロボノに関する広報事業

◆プロボノセミナー&プロボノサミット

2010年4月23日・24日 日本財団（東京・虎ノ門）にて開催

米国サンフランシスコを拠点に、先進的な「プロボノ」の取り組みをけん引する「タッブルートファウンデーション」の中心的スタッフを招き、「プロボノが生み出す企業価値と成功に導く5つのキーポイント」と題したセミナーを開催しました。

米国におけるプロボノの最新動向や、プロボノを成功させるための具体的なキーポイント、そして、日本の企業や行政などに向けたメッセージについて講演いただきました。当日は、企業、NPO、個人など102名が参加。先駆者に学びながらこれからの日本のプロボノについてのヒントを得る時間となりました。

また、翌24日には、東京のプロボノワーカー約60人とタッブルートとの交流の場「プロボノサミット」を開催。日米のプロボノプロジェクトの実践報告などを行いました。



◆プロボノフォーラムOSAKA

2010年10月 2日 ブリーゼプラザ（大阪・西梅田）にて開催

2009年末、東京・原宿にて主催したプロボノフォーラムに続き、大阪初の「プロボノフォーラムOSAKA」を開催しました。ゲストコメンテーターに関西を代表するクリエイティブ集団grafの服部滋樹さん、アースデイマネーや打ち水大作戦など様々なソーシャルプロモーションの仕掛け人である池田正昭さんを迎え、「プロボノの基本」から始まり、プロボノを活用したい「NPOのニーズ」、そして、仕事の経験やスキルを提供するプロボノワーカーの体験談など異なる立場の視点を交えながらプロボノについて理解を深めるイベントとなりました。

当日お越しいただいた147名の来場者からは、「大阪でもぜひプロボノが活発に行われるようになればと思います」「関西で活動が開始したら何らかの形で関わりたい」など、プロボノの広がりに対する期待感が数多く寄せられました。



◆企業×プロボノ 2010年“プロボノ元年”における先進事例と将来展望

2010年12月 9日 エコプロダクツ2010（東京ビッグサイト）にて開催

企業人が自らのスキルを活かして参加するボランティアの機会として、また、企業人のスキルアップや自己研鑽の機会としての期待が高まる中、今後企業はプロボノをどうとらえ、どう活用していくのか。2010年、プロボノの実践に動き出した3社の事例発表を通じて、これからの企業におけるプロボノのあり方を展望しました。

会場となった東京ビッグサイトのステージ前には、社会貢献活動の成熟に向けた新たな選択肢に関心を寄せる100名以上の方にご来場いただきました。



3 | プロボノに関するコンサルティング事業

◆NEC社会起業塾ビジネスサポーター

日本電気株式会社では、2002年以来、「NEC社会起業塾」を通じて、社会起業家を育成するプログラムを継続的に行っています。このNEC社会起業塾から輩出された起業家を対象に、社員の有志がビジネススキルを持ち寄り、新たにプロボノによる支援を行うプログラムとして、2010年度からスタートしたのが「NEC社会起業塾ビジネスサポーター」です。

2010年度は15人のNECグループ社員が参加し、ワンコイン健診を推進するケアプロ株式会社（中野区）の顧客管理システムのバージョンアップ、高収益農業を推進する株式会社オリザ（渋谷区）のウェブサイトリニューアルを実施しました。

サービスグラントは、社会起業家の募集・採択、社内説明会の開催などの準備から、プロジェクト運営、成果物納品までの一貫したサポートを通じて、事務局としての役割を担いました。



◆ゴールドマン・サックス証券株式会社

ゴールドマン・サックス証券株式会社では、社員参加型の社会貢献活動として、NPOの組織基盤構築支援を行うプロボノプロジェクトを2010年10月に開始しました。病児保育サービス等を運営する子育てネットワーク・ピッコロ（東京都清瀬市）、子どもや親子向けのコミュニケーション講座を運営するJAMネットワーク（横浜市）の2団体に対して、社員プロボノチームがヒアリングや文献調査、チーム内ディスカッションなどを通じて戦略提案を行いました。

サービスグラントは、プロボノプロジェクトのコーディネートやNPO基盤構築支援に関するナレッジを活かし、プロジェクト運営事務局として、支援先NPO選定からプロジェクト進行、成果物提供までをサポートしました。



◆NPO法人ETIC. リサーチ・プロジェクト100

学生向けインターンの紹介や、社会起業家の育成に取り組むNPO法人ETIC.では、2年間に100人の社会起業家を育成することを目的とした「ソーシャルビジネスエコシステム創出プロジェクト」の一環として、2010年7月より「リサーチ・プロジェクト100」を実施しています。社会起業家の描く事業構想について、プロボノワーカーが市場調査等を行うことで、立ち上げ期の起業家をサポートしています。

2010年7月から9月に実施された第1期では、計20名の社会起業家の支援を行い、77名のプロボノワーカーが参加する、大規模なプロボノプロジェクトとなりました。

サービスグラントは、プロジェクト協働パートナーとして、プロボノプログラムの企画・構築から、全20チームのプロジェクト進行管理までの運営業務全般をサポートしました。



4 | 情報発信実績

2010年度には多くのメディアに、「プロボノ」を取り上げていただきました。テレビ4件、新聞23件、雑誌・専門誌16件、ウェブ・書籍・ラジオ各2件の情報発信実績となりました。

テレビ	◆BSJapan デキビジ 2010年8月8日 ◆NHK総合 クローズアップ現代 2010年7月1日 ◆テレビ東京 ワールドビジネスサテライト 2010年4月27日 ◆NHK総合 おはよう日本 2010年4月22日
新聞	◆朝日新聞 2011年 3月 2日 ◆朝日新聞 2011年 2月15日 ◆朝日新聞 2011年 2月 8日 ◆フジサンケイ ビジネスアイ 2011年1月12日 ◆朝日新聞 2010年11月20日 ◆上毛新聞 2010年10月27日 ◆愛媛新聞 2010年10月11日 ◆読売新聞 (夕刊) 2010年10月 5日 ◆中国新聞 2010年10月4日 ◆河北新報 2010年10月3日 ◆新潟日報 2010年 9月30日 ◆北羽新報 2010年 9月29日 ◆神戸新聞 2010年 9月23日 ◆山口新聞 2010年 9月22日 ◆公明新聞 2010年 9月21日 ◆東京新聞・中日新聞 2010年09月17日 ◆神奈川新聞 2010年8月23日 ◆日本経済新聞 (夕刊) 2010年8月10日 ◆織研新聞 2010年 8月10日 ◆北海道新聞 2010年 8月 2日 ◆朝日新聞 2010年 7月26日 ◆朝日新聞 2010年 7月 7日 ◆向学新聞 2010年 6月 1日 ◆織研新聞 2010年 4月27日 ※特に記載のないもの以外はすべて「朝刊」
雑誌・専門誌	◆たあとる通信 2011年 3月29日号 NO.33 ◆シティリビング 2011年 2月25日 ◆NPOマネジメント 2011年2月20日号 ◆宣伝会議 2011年2月1日号 No.806 ◆地方自治職員研修 2011年1月 612号 ◆ノジュール 2011年1月号 ◆R25 2010年11月18日 (No.276) ◆賃金事情 2010年11月 5日号 No.2596 ◆広報会議 2010年10月 ◆ボランティア情報 2010年10月 No.401 ◆広告 2010年 9月15日 ◆人事実務 2010年 9月15日 No.1087 ◆サンデー毎日 2010年 9月 5日号 ◆人事実務 2010年8月1日・15合併号 No.1085 ◆「ソトコト」 2010年5月号 No.131 ◆NPOマネジメント 2010年4月 vol.66
ウェブ	◆ダイヤモンド・オンライン 2010年7月13日
書籍	◆駒崎弘樹著「社会を変えるお金の使い方」(英治出版) 2010年12月17日発売 ◆竹井善昭著「社会貢献でメシを食う」(ダイヤモンド社) 2010年9月10日発売
ラジオ	◆NHKラジオ NHKジャーナル 2010年 5月20日 ◆J-WAVE「ロハスサンデー」 2010年 4月17日

▼NHK「クローズアップ現代」2010.7.1



▼テレビ東京「WBS」2010.4.27



▼日本経済新聞 夕刊 2010.8.10



▼朝日新聞 2011.3.1

都会から地方に元氣



5 | 理事より

生駒 芳子 [理事] ファッションジャーナリスト

プロボノのよさというのは、自分の力を知ることでもあります。同時にそれが人のためにもなって、自分にも良いエネルギーが返ってくる、エネルギーの循環だと私は思っています。プロボノをまだされていない方はぜひサービスグラントに参加していただき、既にプロボノを実践されている方は、1回だけではなく、今度は続けていくことが重要だと思います。

プロボノは、大きな社会の潤滑油であり、エネルギー源であり、社会のエンジンになるものです。大きな構造や仕組みではなく、21世紀では一人ひとりの小さな力が重なって、エンジンになっていく。プロボノはそのいちばんのルートであり、回路になりうるものです。

川渕 恵理子 [理事] 株式会社イデー 常務取締役

東日本大震災は多くの人々のなかに善意が存在することを証明しました。そして同時に、善意が力となるには、それを動かす仕組みやプラットフォームが不可欠であることもわかりました。このことは、今回の災害で表面化しましたが、社会が潜在的に必要としていたことではないでしょうか。

まさにこの意味での仕組みであり、プラットフォームであるサービスグラントとしては、このタイミングでより多くの方が参画できるよう、個人が提供できるスキルを多様化させること、あわせてNPOに対するサービス内容の拡大を検討するべきだと考えています。

中野 宗 [理事] 株式会社アークウェブ 代表取締役社長

そもそもノンプロフィット団体という存在は、既存の社会の枠組みでは見過ごされてしまう、こぼれてしまうような問題に対するオルタナティブとして価値ある存在だと思います。なかでもサービスグラントは、「働き方」「スキルの使い方」のオルタナティブとして、またその取り組みを通じてさまざまな人のつながりを豊かにすることができる点でも、存在意義が高まっていると思います。

3.11大震災以降、さまざまな人や団体がこれまでの枠組みを超えた動きをしています。こういった危急時の人の動きの「闊」を下げていくためにも、プロボノという概念の浸透は重要だと今回改めて気づきました。理事としては、自分が身を置くウェブ業界での啓発と人材リクルートを引き続きがんばってまいります。

金子 和夫 [理事] 株式会社日本総合研究所 上席主任研究員

地域の再生に都市の市民の力を派遣する「ふるさとプロボノ」に大賛成です。地域は地域単体で成り立っているものではなく、都市や海外と広域的に連携して存在しています。

都市の市民が地域を支援することで、地域の人材や組織が活性化するとともに、都市の市民も、地域の存在なしに都市生活がありえないことを実感することが可能となると思います。

ふるさとプロボノで、都市と地域を結びましょう。

奥山 俊一 [特別顧問] 株式会社日本総合研究所 特別顧問

昨年来、特別顧問に参画させていただき、NPOの活動の一端を拝見する機会を得ました。スキル登録者、理事各位、事務局の皆さんの献身的な努力には頭が下がります。又、一月には嵯峨代表理事とご一緒し、サンフランシスコに出張、ボランティア・マッチ、タップルーツを見学する機会もありました。米国でのNPO活動の現況を勉強でき大変参考にもなりました。

東日本大震災を機に、2011年が日本にとって「寄付元年」になればいいと考えています。

吉岡 直樹 [監事] 合同会社アンブラグ 代表取締役社長

最近増えてきたプロボノの守備範囲の広さに少し驚くとともに、その可能性にはますます注目が集まるでしょう。そして、これからは社会をより創造的に動かすことに貢献するためにも自治体周辺のプロボノのニーズはより高まっていくと思います。

また今までプロボノやボランティアなどに全く感心がなかった層にも何かやれることがあるのではないかと感じている人は明らかに増えていると思います。（実際にも周りでプロボノ的な活動を始めている人は多数います。今まで興味なかった友人のデザイナーも説明会に自主的にいったらしくびっくりしました。）今でいえば復興関連でもプロボノは活躍できるし、そういうニーズも上がっていると思います。この震災後のプロボノ的なニーズの高まりに対して、うまく対応できるプログラムが求められてくるでしょう。

6 | 会計報告

2010年度、サービスグラントの財政規模は2622万円となりました。コンサルティング事業の拡大に伴い、事業収入は大きくなりましたが、同時に、有給スタッフが4名となり、人件費が増加しました。また、普及・広報事業に関する各種イベントの開催は、次年度以後につながる「投資」と位置づけ、2010年度に積極的に開催しました。その結果、最終的な収支差額は約28万円となりました。

【特定非営利活動に係る事業会計収支計算書】

(単位：円)

[経常収支の部]

【経常収入】

事業収入

① サービスグラントの提供事業	5,000,000
② 普及・広報事業	1,027,180
③ コンサルティング事業	19,844,470
正会員会費収入	50,000
寄付金収入	301,606
受取利息収入	5,868

経常収入 計

26,229,124

【事業費】

人件費	11,179,250
外注費	4,482,529
会議費・交際費	314,396
旅費交通費	1,230,238
通信運搬費	36,857
消耗品費・新聞図書費	172,450
印刷製本費	1,111,632
租税公課	3,600
支払手数料	255,942
雑費	41,176

当期事業費 計

18,828,070

合 計

18,828,070

事業費 計

18,828,070

【管理費】

人件費	2,502,500
外注費	1,229,984
法定福利費・福利厚生費	327,943
荷造運賃	49,820
会議費・交際費	44,146
旅費交通費	311,220
通信運搬費	247,005
消耗什器備品費・修繕費	177,419
消耗品費・新聞図書費	187,269
印刷製本費	20,790
支払手数料	512,100
地代家賃・保険料	1,351,902
租税公課	100,200
減価償却費	42,666
雑費	16,240

管理費 計

7,121,204

経常収支差額

279,850

[その他資金収支の部]

【その他資金収入】

その他資金収入 計

0

【その他資金支出】

その他資金支出 計

0

当期収支差額

279,850

前期繰越収支差額

1,442,467

次期繰越収支差額

1,722,317

7 | お世話になった皆さま [各項目 50音順]

サービスグラントは、数多くのプロボノワーカーのスキルと熱意、そして、NPOの皆さまの理解の賜物によって成立しています。

サービスグラントにご参加いただいたプロボノワーカー、そして、NPOの皆さまに、厚く御礼申し上げます。

また、2010年度、サービスグラントの運営に関して、以下の企業・団体・個人の皆さまより、多大なるご支援・ご協力を賜りました。この場を借りて、心より御礼申し上げます。

特別協力

タップルルート・ファウンデーション

事業助成・セミナー会場提供等

日本財団

協働事業の実施パートナー

特定非営利活動法人 ETIC.

ゴールドマン・サックス証券株式会社

日本電気株式会社

システム等の提供協力・プロボノワーカー告知協力・その他

エコプロダクツ2010

株式会社 エナジャイズ

オウケイウェイヴ株式会社

コンパスポイント

SundayLAB

特定非営利活動法人 シブヤ大学

日本ベリサイン株式会社

株式会社 ヌーラボ

株式会社 ロフトワーク

do it pro bono.